



2017 年 11 月 9 日

森と海の自然科 「川と街道を訪ねて」シリーズ No.7

古琵琶湖&木津川源流部と初瀬街道・伊賀街道 の記録

今回は奈良桜井と三重松阪を結ぶ＜初瀬街道＞沿道の史跡を訪ね、青山高原に源を発する木津川の源流部を確認、約 400 万年前に古琵琶湖「大山田湖」があったとされる木津川の支流・服部川上流の大山田地域＜伊賀街道＞平田宿を訪ね、服部川では古琵琶湖関連の化石採取を試みた。

- | | | | |
|--------|---|-----------|----|
| 1：日 時 | 平成 29 年 11 月 9 日（木） | チャーターバス利用 | 晴天 |
| 2：集合場所 | 8 時：JR 大阪城公園駅 | | |
| 3：参加費 | 3,500 円（バス代、玉串料、ガイド代） | | |
| 4：参加者 | 20 名（浅野、伊藤、乾、大石、金高、金戸、上條、児玉、坂根、荘村、中西、秦、日景、藤本、前野、万井、杢三、山下、倭、山本裕） | | |
| 5：目的地 | 初瀬街道阿保宿、大村神社、伊勢路宿、坂下集落（木津川源流地域観察）、大山田公民館（化石見学）、伊賀街道平田宿、服部川化石観察、化石採取 | | |

大阪城公園前を予定通り出発。バスは順調に高速道路を抜け最初の目的地、阿保の街道に到着した。

阿保宿常夜灯

伊勢参宮の道しるべとして 1860 年、有志が頼母子講により設置。胴が細くずいぶん不安定に見える。



伊賀市阿保の息速別命（いこはやわけのみこと）墓（伝阿保親王墓）

苔むした小さな参道の先に生垣に囲まれた方形の区画。その奥は鬱蒼と茂る木々、どのような形か全く窺えない。

阿保親王は第 11 代垂仁天皇の皇子、倭姫命の弟、日本尊の叔父と言われる。

初瀬街道交流の館「たわらや」 見学

阿保宿の旅籠「たわらや」の跡地に「参宮講看板」など資料を保存・展示。講看板は 60 cm×30 cm×3 cm のケヤキ板を使用し講名などを深く彫り、彩色、ウルシをかけた立派なもの。来宿の予定日に軒下に吊るし目印として使用した。



本居宣長菅笠日記の碑

明和九年三月六日（1764 年）この場所で歩いて川を渡ったと。当時の木津川の様子を想像する。

大村神社参道 大村神社参拝（要石）

大村神社宮司より講話。由緒ある古社で地震守護の「要石」があると。本殿前に大鯰の石像が置かれ多くの方が水をかけて安寧を祈っていた。

宝殿は木肌葺きで彩色が素晴らしい。彫刻は桃山時代、彩色は江戸時代初期のものである。



伊勢路宿常夜灯

文政 11 年（1831 年）、大正 11 年（1922 年）改基との銘があり、大きな自然石を積み上げた常夜灯が立っている。

妙楽寺地藏磨崖仏

道路沿いの岩壁に高さ 30 cm ほどの 7 体の地藏磨崖仏。彫が浅く判然としない。運転手が農作業帰りの女性にどこにあるか聞いたが知らないと。地元で知られていないとは驚き。

坂下集落（さかげ） 木津川源流地域観察

東斜面に並ぶ集落の下を流れる幅 2m ほどの小さな川、少し川に沿って遡ると木津川源流の表示。源流はるか先の青山高原。樹林の間を流れ来る水面を眺めて引き返す。



大山田公民館 化石見学と説明（伊賀盆地化石研究会北田会長）

この地域が古琵琶湖より以前の海だったころ（1700 万年前）のクジラの化石レプリカが展示されていた。



伊賀街道平田宿見学 つばや菓子舗 セえくろ餅試食

街道には今も 2 階建てのしっかりした建物が立ち並び当時は多くの旅人の賑わいが想像される。道路沿いの水路の上に小さな神社が祭られている。街は何度も火災に見舞われていた故の守り神とのこと。そう、当時は萱葺き屋根で火災が広がり易かったに違いない。

店主の観光案内に感謝を込めてそれぞれおみやげ購入。

服部川河原観察 化石採取（指導は北田会長）

公園の一角に琵琶湖の起源・大山田湖のゾウ、ワニ足跡化石レプリカでゾウの大きさを実感。この地域に生息していたゾウはミエゾウと呼ばれ、現在のアフリカゾウより大きかったと。

目の前の河原に行き大小の石に向かいハンマーを振るうといとも簡単に割れ、そして多数の巻貝（イガタニシ、360 万年前）が現れた。貝を取り出そうとしても小さく割れてしまう。貝殻がこのようなもろくなっているとは想像もしなかったこと。大変興味深かった。



大村神社境内で

写真：坂根 記録：上條